

No.	起案(主査)	テーマ	テーマ設定の背景 (事由等)	研究活動の概要 (やるべきことの概要及び最終成果物のイメージ等)	参加して欲しい会員の特徴 (参加メンバーの時間的余裕や資格取得、専門性等の制約条件)	活動プラン (活動予定日、頻度、場所等)	備考
1	下野 善弘	グローバル変更管理	・製品の変更には大きなリスクがあるが、生産中止や改善のためには避けられない。しかも、昨今グローバル調達、オフショア開発、海外生産拠点、グローバルグループ会社との共同設計等、リスクはさらに増大している上に、スピード、効率、品質もより要求が厳しくなっている。	・社内の設計変更、工程変更、サプライヤーによる部品変更を、各工場拠点、グループ会社、グローバル調達に広げる上で、スピード、効率、品質を全体最適化できる仕組みを確立する。	・業務上、品質管理、変更管理に関わっている方、もしくは過去に関わった方や、このテーマと一緒に検討したい方	・掲示板やメールを利用し、集まったの会合は月1回程度とする。 ・場所は、可能であれば会員の会社の会議場所や、集まるメンバーに便利な京阪神の会議場所など	継続テーマ 3人集まれば開催。
2	土肥正利	ガイドブック 第3版を読み解く	・P2Mの本質である、第2部「プログラムマネジメント」の部について第3版発行を機会に、もう一度原点に戻って勉強会を開催し、広く、新メンバーを集う。	・昨年度に引き続き、GBの疑問点、各人の理解を公表しあい、フリーディスカッションからスタートする。 ・各人の理解ベースに、参加者から「P2M川柳」や「あるあるP2M」、「事例」あてはめなどコラム的な要素としてまとめる。 ・ガイドブックの輪講、各人の解釈まとめ、さらには過去の研究部会の報告書や他の資料も参照し、プロファイリング、アーキテクチャマネジメントを学び、手法として活用できるようにする。	・PMS、PMSP資格得後P2Mの勉強を継続したい方。 ・プロファイリング、アーキテクチャマネジメントと一緒に理解を深めたい方。	・毎月1回 平日18:30か19:00開催 ・場 所:メンバー勤務先会議室借用予定	継続テーマ
3	小田久弥	P2Mの「実践力」を実践してみる	・P2Mでは、第6部1章「P2Mを実践するマネジャーの実践力」にまとめられているように「実践力」を重視している。プロジェクトにおいても、日常の生活においても、「実践力」は重要である。「実践力」について、深く研究したいと考え、このテーマに賛同されるメンバーを募って研究部会を立ち上げることにした。	以下の3つのステップで活動する。 ①P2Mで述べられている実践力向上の取組み内容を全員で学習し知識を得る。 ②各自テーマを設定し、実践力向上のフレームをベースに実際に取り組んでみる。テーマは、自己のプロジェクトだけでなく「なんでもあり」(プロジェクトでも、プログラムでも、定業務でも、私生活でもなんでもOK) ③各自、その成果を振り返り、まとめる。各自の取組みをまとめ、本分科会の成果とする。	・実践力向上に興味のある方	・毎月1回 平日18:30か19:00開催 ・場 所:メンバー勤務先会議室借用予定	新規テーマ
4	島尾(戴)春莉、吉岡	「思いを形にする」コミュニケーション	コミュニケーションの理論、方法論、そして、実践経験などの研究は沢山あります。しかし、グローバル情報社会の中、ビックデータ、Industry 4.0、AIなどの発展により、単純に作業を実現することではなく、人間の行為に近づくような複雑な作業の実現も可能になってきています。  人間の思いをどういう風に製造現場に、確実に伝えるのかは非常に重要なこととなります。思いを文章に書き出すことは一つの方法ですが、使用する言語、書く人の文章力、読む人の理解力、書く時間、読む時間、真意が伝わるかどうか等々、グローバル社会に向かって、特定の言語(例えば、英語)で分かりやすい文章を書くのも大きい壁があると思います。  「デザイン思考」は最近、IT分野でも注目されています。デザイナー達の以心伝心・以物伝心、「思いを形にする努力」は、ステークホルダーやPMチームの中、「共感」を呼び、従来の主観、ルール、習慣などを破るまでのイノベーションを起こしています。 デザイナー達のコミュニケーションは文章力に依存していません、人の感情を引き出すことができるので、一度、デザイナー達のコミュニケーションの仕方を学び、違う視点からコミュニケーション仕方を再考してみたい。	・デザイン思考を取り入れたコミュニケーションについて、ワークショップを取り入れながら、より実践的な方法を探る。 ・職種、国籍等に捉われないコミュニケーションを前提に、海外の方も交えた活動とする。(説明図を添付)  <目標1> コミュニケーションのやり方の違いを知る ■ デザイナー達のやり方 ■ 製造分野でのやり方 上記を比較し、それぞれの特徴を知ること  <目標2> コミュニケーションのやり方の最適化 ■ 文章力に依存しない ■ 共感と呼べる ■ 自然な無理のない 上記のいずれかを実現していること	資格等の制約はないが、現場経験のある方を望む。  また、グローバル環境でのコミュニケーションを再現する為に、海外の留学生も本研究部会のパートナーとして呼ぶつもりなので、その旨承知した話しやすい方がよい。	開催場所は、京都 時間は未定 (参加者達との相談)	